校異源氏物語・うす雲

冬になりゆくまゝにかはつらのすまゐいとゝ心ほそさまさりてうはの空なる心ちのみしつゝあかしくらすを君も猶かくてはえすくさしかのちかき所に思たちねとすゝめ給へとつらき所おほく心みはてむものこりなき心ちすへきをいかにいひてかなといふやうに思ひみたれたりさらはこのわか君をかくてのみはひなき事なり思心あれはかたしけなしたいにきゝをきてつねにゆかしかるをしはしみならはさせてはかまきの事なとも人しれぬさまならすしなさんとなむ思ふとまめやかにかたらひ給ふさおほすらんとおもひわたる事なれはいとゝむねつふれぬあらためてやんことなきかたにもてなされ給とも人のもりきかん事は中なかにやつくろひかたくおほされんとてはなちかたく思たることはりにはあれとうしろやすからぬかたにやなとはなうたかひ給そかしこには年へぬれとかゝる人もなきかさうさうしくおほゆるまゝに前斎宮のおとなひものし給をたにこそあなかちにあつかひきこゆめれはましてかくにくみかたけなめるほとををろかにはみはなつましき心はへになと女君の御ありさまのおもふやうなることもかたり給ふけにいにしへはいかはかりのことにさたまり給へきにかとつてにもほのきこえし御心のなこりなくしつまり給へるはおほろけの御すくせにもあらす人の御ありさまもこゝらの御中にすくれ給へるにこそはと思やられてかすならぬ人のならひきこゆへきおほえにもあらぬをさすかにたちいてゝ人もめさましとおほす事やあらむわか身はとてもかくてもおなし事おいさきとをき人の御うへもついにはかの御心にかゝるへきにこそあめれさりとならはけにかうなに心なきほとにやゆつりきこえましと思ふ又てをはなちてうしろめたからむことつれ　くもなくさむかたなくてはいかゝあかしくらすへからむなにゝつけてかたまさかの御たちよりもあらむなとさま　くに思みたるゝに身のうき事かきりなしあま君おもひやりふかき人にてあちきなしみたてまつらさらむ事はいとむねいたかりぬへけれとつゐにこの御ためによかるへからん事をこそ思はめあさくおほしてのたまふ事にはあらしたゝうちたのみきこえてわたしたてまつり給てよはゝかたからこそみかとの御こもきわ　くにおはすめれこのおとゝの君の世にふたつなき御ありさまなから世につかへ給はこ大納言のいまひときさみなり

おとり給てかういはらといはれ給しけちめにこそはおはすめれましてたゝ人はなすらふへき事にもあらす又みこたち大臣の御はらといへと猶さしむかひたるおとりの所には人もおもひおとしおやの御もてなしもえひとしからぬものなりましてこれはやむことなき御かた　くにかゝる人いてものし給はゝこよなくけたれ給なむほとほとにつけておやにもひとふしもてかしつかれぬる人こそやかておとしめられぬはしめとはなれ御はかまきのほともいみしき心をつくすともかゝるみ山かくれにてはなにのはへかあらむたゝまかせきこえ給てもてなしきこえ給はむありさまをもさゝ給へとをしふさかしき人の心のうらともにもものとはせなとするにも猶わたり給てはまさるへしとのみいへはおもひよはりにたり殿もしかおほしなからおもはむ所のいとをしさにしひてもえのたまはて御はかまきの事はいかやうにかとの給へる御返によろつの事かひなき身にたくへきこえてはけにおひさきもいとをしかるへくおほえ侍をたちましりてもいかに人わらへにやときこえたるをいとゝあはれにおほす日なとゝらせ給てしのひやかにさるへき事なとの給ひをきてさせ給ふはなちきこえむ事は猶いとあはれにおほゆれと君の御ためによかるへき事をこそはとねんすめのとをもひきわかれなん事あけくれのものおもはしさつれ　くをもうちかたらひてなくさめならひつるにいとゝたつきなき事さへとりそへいみしくおほゆへき事と君もなくめのともさるへきにやおほえぬさまにてみたてまつりそめてとしころの御心はへのわすれかたう恋しうおほえ給へきをうちたえきこゆる事はよも侍らしつゐにはとたのみなからしはしにてもよそ　くに思のほかのましらひし侍らむかやすからすも侍へきかななとうちなきつゝすくすほとにしはすにもなりぬゆきあられかちに心ほそさまさりてあやしくさま　くにもの思ふへかりける身かなとうちなけきてつねよりもこの君をなてつくろひつゝみゐたり雪かきくらしふりつもるあしたきしかた行するゑの事のこらす思つゝけてれいはことにはしちかなるいてゐなともせぬをみきはのこほりなとみやりてしろききぬとものなよゝかなるあまたきてなかめゐたるやうたいかしらつきうしろてなとかきりなき人ときこゆともかうこそはおはすらめと人　くもみるおつる涙をかきはらひてかやうならむ日ましていかにおほつかなからむとらうたけにうちなけきて

雪ふかみみ山のみちははれすとも猶ふみかよへあとたえすしてとのたまへはめのとうちなきて

ゆきまなきよしのゝ山をたつねても心のかよふあとたえめやはといゝなくさむこの雪すこしとけてわたり給へりれいはまちきこゆるにさならむとおほゆ

ることによりむねうちつふれてひとやりならすおほゆわか心にこそあらめいなひきこえむをしひてやはあちきなとおほゆれとかる　くしきやうなりとせめて思かへすいとうつくしけにてまへにゐたまへるをみ給にをろかにはおもひかたかりける人のすくせかなとおもほすこの春よりおふす御くしあまそきのほとにてゆら　くとめてたくつらつきまみのかほれるほとなといへはさらなりよそのものに思やらむほとの心のやみをしはかり給にいと心くるしけれはうちかへしの給あかすなにかかくくちおしき身のほとならすたにもてなし給はゝときこゆるものからねんしあへすうちなくけはひあはれなりひめ君はなに心もなく御車にのらむ事をいそき給よせたる所にはゝ君みつからいたきていて給へりかたことのこゑはいとうつくしうて袖をとらへてのり給へとひくもいみしうおほへて

　するとをきふたはの松にひきわかれいつかこたかきかけをみるへきえもいひやらすいみしうなけはさりやあなくるしとおほして

　おひそめしねもふかけれはたけくまの松にこまつのちよをならへんのとかにをとなくさめ給さることゝはおもひしつむれとえなむたへさりけるめのとの少将とてあてやかなる人はかり御はかしあまかつやうのものとりてのる人たまひによろしきわか人わらはなとのせて御をくりにまいらすみちすからとまりつる人の心くるしさをいかにつみやうらむとおほすくらうおはしつきて御車よするよりはなやかにけはひことなるをゐなかひたる心ちともはゝしたなくてやましらはむと思ひつれとにしおもてをことにしつらはせ給ひてちひさき御てうととともうつくしけにとゝのへさせ給へりめのとのつほねにはにしのわたとのゝきたにあたれるをせさせ給へりわか君はみちにてねたまひにけりいたきおろされてなきなとはしたまはすこなたにて御くたものまいりなとし給へとやう　くみめくらしてはゝ君のみえぬをもとめてらうたけにうちひそみたまへはめのとめしいてゝなくさめまきらはしきこえ給ふ山里のつれ　くましていかにとおほしやるはいとおしけれとあけくれおほすさまにかしつきつゝみ給ふはものあひたる心ちし給らむいかにそや人のおもふへきゝすなきことはこのわたりにいておはせてとくちおしくおほさるしはしは人　くもとめてなきなとし給しかとおほかた心やすくおかしき心さまなれはうへにいとよくつきむつひきこえ給へれはいみしううつくしきものえたりとおほしけりこと事なくいたきあつかひもてあそひきこえ給ひてめのともをのつからちかうつかうまつりなれにけり又やむことなき人のちあるそへてまいり給御はかまきはなにはかりわさとおほしいそく事はなけれとけしきことなり御しつらひゝゐなあそひの心ちしておかしうみゆ

まいり給へるまらうとともたゝあけくれのけちめしなけれはあなかちにめもたゝさりきたゝひめ君のたすきひきゆい給へるむねつきそうつくしけさそひてみえ給つる大井にはつきせす恋しきにも身のをこたりをなけきそへたりさこそいひしかあま君もいとゝなみたもろなれとかくもてかしつかれ給ふをきくはうれしかりけりなに事をか中　くとふらひきこえ給はむたゝ御かたの人　くにめのとよりはしめてよになき色あひを思ひいそきてそをくりきこえ給けるまちとをならむもいとゝされはよと思はむにいとおしけれはとしのうちにしのひてわたり給へりいとゝさひしきすまゐにあけくれのかしつきくさをさへはなれきこえて思らむことの心くるしけれは御文なともたえまなくつかはす女君もいまはことにゑしきこえ給はすうつくしき人につみゆるしきこえ給へりとしもかへりぬうらゝかなる空に思ふ事なき御ありさまはいとゝめてたくみかきあらためたる御よそひにまいりつとひ給める人のおとなしきほとのは七日御よろこひなとし給ふひきつれ給へりわかやかなるはなにともなく心ちよけにみえ給つきつきの人も心のうちには思ふこともやあらむうはへはほこりかにみゆるころほひなりかしひむかしの院のたいの御かたもありさまはこのましうあらまほしきさまにさふらふ人　くわらはへのすかたなとうちとけす心つかひしつゝすくし給にちかきしるしはこよなくてのとかなる御いとまのひまなとにはふとはいわたりなとし給へとよるたちとまりなとやうにわさとはみえ給はすたゝ御心さまのおいらかにこめきてかはかりのすくせなりける身にこそあらめと思ひなしつゝありかたきまてうしろやすくのとかにものし給へはおりふしの御心をきてなともこなたの御ありさまにおとるけちめこよなからすもてなし給てあなつりきこゆへうはあらねはおなしこと人まいりつかうまつりてへたうともゝ事をこたらす中　くみたれたる所なくめやすき御ありさまなり山さとのつれ　くをもたえすおほしやれはおほやけわたくしものさはかしきほとすくしてわたり給とてつねよりことにうちけさうし給てさくらの御なをしにえならぬ御そひきかさねてたきしめさうそき給ひてまかり申し給さまくまなきゆふひにいとゝしくきよらにみえ給ふ女君たゝならすみたてまつりをくり給ふひめ君はいはけなく御さしぬきのすそにかゝりてしたひきこえ給ほとにとにもいて給ひぬへけれはたちとまりていとあはれとおほしたりこしらへをきてあすかへりこむとくちすさひていて給にわたとのゝとくちにまちかけて中将の君してきこえ給へり

　舟とむるをちかた人のなくはこそあすかへりこむせなとまちみめいたうなれてきこゆれはいとにほひやかにほゝゑみて

行てみてあすもさねこむ中　くにをちかた人は心をくともなに事ともきゝわかてされありき給人をうへはうつくしとみ給へはをちかた人のめさましきもこよなくおほしゆるされにたりいかに思をこすらむ我にていみしう恋しかりぬへきさまをとうちまもりつゝふところにいれてうつくしけなる御ちをくゝめ給つゝたはふれゐたまへる御さまみところおほかりおまへなる人　くはなとかおなしくはいてやなとかたらひあへりかしこにはいとのとやかに心はせあるけはひにすみなしていへのありさまもやうはなれめつらしきにみつからのけはひなとはみるたひことにやむことなき人　くなとにおとるけちめこよなからすかたちよういあらまほしうねひまさりゆくたゝよのつねのおほえにかきまきれたらはさるたくひなくやはと思ふへきを世にゝぬひかものなるおやのきこえなとこそくるしけれ人のほとなとはさてもあるへきをなとおほすはつかにあかぬほとにのみあれはにや心のとかならすたちかへり給ふもくるしくて夢のわたりのうきはしかとのみうちなけかれてさうのことのあるをひきよせてかのあかしにてさ夜ふけたりしねもれいのおほしいてらるれはひはをわりなくせめたまへはすこしかきあはせたるいかてかうのみひきくしけむとおほさるわか君の御ことなとこまやかにかたり給つゝおはすこゝはかゝるところなれとかやうにたちとまり給ふおり　くあれははかなきくたものこはいゐはかりはきこしめすときもありちかきみてらかつらとのなとにおはしましまきらはしつゝいとまおにはみたれ給はねと又いとけさやかにはしたなくをしなへてのさまにはもてなし給はぬなとこそはいとおほえことにはみゆめれ女もかゝる御心のほとをみしりきこえてすきたりとおほすはかりのことはしいてす又いたくひけせすなとして御心をきてにもてたかふ事なくいとめやすくそありけるおほろけにやむことなき所にてたにかはかりもうちとけ給事なくけたかき御もてなしをきゝをきたれはちかきほとにましらひては中　くいとめなれて人あなつられなる事ともゝそあらましたまさかにてかやうにふりはへ給へるこそたけき心ちすれと思へしあかしにもさこそいひしかこの御心をきてありさまをゆかしかりておほつかなからす人はかよはしつゝむねつふるゝ事もあり又おもたゝしくうれしと思事もおほくなむありけるそのころおほきおとゝうせ給ぬ世のおもしとおはしつる人なれはおほやけにもおほしなけくしはしこもり給しほとをたにあめのしたのさはきなりしかはましてかなしとおもふ人おほかり源氏のおとゝもいとくちおしくよろつことをしゆつりきこえてこそいとまもありつるを心ほそく事しけくもおほされてなけきおはす御かとは御としよりはこよなうおとな　くしうねひさせ給て世

のまつりこともうしろめたく思きこえ給へきにはあらねとも又とりたてゝ御うしろみし給へき人もなきをたれにゆつりてかはしつかなる御ほいもかなはむとおほすにいとあかすくちおしのちの御わさなとにも御こともむまこにすきてなんこまやかにとふらひあつかひ給ひけるそのとしおほかたよのなかさはかしくておほやけさまにものゝさとししけくのとかならてあまつ空にもれいにたかへる月日ほしのひかりみえくものたゝすまひありとのみ世の人おとろく事おほくてみち　くのかむかへふみともたてまつれるにもあやしく世になへてならぬ事ともましりたり内のおとゝのみなむ御心のうちにわつらはしくおほししらるゝ事ありける入道きさいの宮春のはしめよりなやみわたらせ給て三月にはいとをもくならせ給ぬれは行幸なとあり院にわかれたてまつらせ給ひしほとはいといはけなくてものふかくもおほされさりしをいみしうおほしなけきたる御けしきなれは宮もいとかなしくおほしめさることしはかならすのかるましきとしと思給へつれとおとろ　くしき心ちにも侍らさりつれはいのちのかきりしりかほに侍らむも人やうたてこと　くしうおもはむとはゝかりてなむくとくの事なともわさとれいよりもとりわきてしも侍らすなりにけるまいりて心のとかにむかしの御物かたりもなと思ひ給へなからうつしさまなるおりすくなく侍てくちおしくいふせくてすき侍ぬることゝいとよはけにきこえ給三十七にそおはしましけるされといとわかくさかりにおはしますさまをおしくかなしとみたてまつらせ給つゝしませ給へき御としなるにはれ　くしからて月ころすきさせ給事をたになけきわたり侍つるに御つゝしみなとをもつねよりことにせさせ給はさりける事といみしうおほしめしたりたゝこのころそおとろきてよろつの事せさせ給ふ月ころはつねの御なやみとのみうちたゆみたりつるを源氏のおとゝもふかくおほしいりたりかきりあれはほとなくかへらせ給もかなしき事おほかり宮いとくるしうてはか　くしうものもきこえさせ給はす御心のうちにおほしつゝくるにたかきすくせ世のさかへもならふ人なく心のうちにあかす思ふことも人にまさりける身とおほししらるうへの夢の中にもかゝる事の心をしらせ給はぬをさすかに心くるしうみたてまつり給てこれのみそうしろめたくむすほゝれたる事におほしをかるへき心ちし給けるおとゝはおほやけかたさまにてもかくやむことなき人のかきりうちつゝきうせ給なむ事をおほしなけく人しれぬあはれはたかきりなくて御いのりなとおほしよらぬ事なしとしころおほしたえたりつるすちさへいまひとたひきこえすなりぬるかいみしくおほさるれはちかき御き丁のもとによりて御ありさまなともさるへき人　くにとひきゝ給へはしたしきかきり

さふらひてこまかにきこゆ月ころなやませ給へる御心ちに御をこなひを時のまもたゆませ給はすせさせ給ふつもりのいとゝいたうくつをれさせ給にこのころとなりてはかうしなとをたにふれさせ給はすなりにたれはたのみ所なくならせ給にたることゝなきなけく人　くおほかり院の御ゆいこむにかなひてうちの御うしろみつかうまつり給ことゝしころおもひしり侍ことおほかれとなにゝつけてかはその心よせことなるさまをもゝらしきこえむとのみのとかに思ひ侍けるをいまなむあはれにくちおしくとほのかにのたまはするもほの　くきこゆるに御いらへもきこえやり給はすなき給さまいといみしなとかうしも心よはきさまにと人めをおほしかへせといにしへよりの御ありさまをおほかたの世につけてもあたらしくおしき人の御さまを心にかなふわさならねはかけとゝめきこえむかたなくいふかひなくおほさるゝ事かきりなしはか　くしからぬ身なからもむかしより御うしろみつかうまつるへき事を心のいたるかきりをろかならすおもひ給ふるにおほきおとゝのかくれ給ぬるをたに世中心あはたゝしく思給へらるゝに又かくおはしませはよろつに心みたれ侍て世に侍らむ事ものこりなき心ちなむし侍なときこえ給ほとにともしひなとのきえいるやうにてはて給ぬれはいふかひなくかなしき事をおほしなけくかしこき御身のほとゝきこゆる中にも御心はへなとの世のためしにもあまねくあはれにおはしましてかうけに事よせて人のうれへとある事なともをのつからうちましるをいさゝかもさやうなる事のみたれなく人のつかふまつる事をも世のくるしみとあるへきことをはとゝめ給ふくとくのかたとてもすゝむるにより給ていかめしうめつらしうし給人なともむかしのさかしき世にみなありけるをこれはさやうなる事なくたゝもとよりのたからものえ給ふへきつかさかうふりみふのものゝさるへきかきりしてまことに心ふかきことゝものかきりをしをかせ給へれはなにとわくましき山ふしなとまておしみきこゆおさめたてまつるにも世中ひゝきてかなしとおもはぬ人なし殿上人なとなへてひとつ色にくろみわたりてものゝはへなき春のくれなり二条院の御まへのさくらを御らむしても花のえむのおりなとおほしいつことしはかりはとひとりこち給て人のみとかめつへけれは御ねむすたうにこもりゐ給て日ひとひなきくらし給ゆふ日はなやかにさして山きはのこするゑあらはなるに雲のうすくわたれるかにひ色なるをなにことも御めとゝまらぬころなれといとものあはれにおほさる

　入日さすみねにたなひくうす雲はもの思ふ袖に色やまかへる人きかぬ所なれはかひなし御わさなともすきてことゝもしつまりてみかともの心ほそくおほ

したりこの入道の宮の御はゝきさきの御世よりつたはりてつき　くの御いのり
のしにてさふらひける僧都古宮にもいとやむことなくしたしきものにおほした
りしをおほやけにもをもき御をほえにていかめしき御願ともおほくたてゝ世に
かしこきひしりなりける年七十はかりにていまはをはりのをこなひをせむとて
こもりたるか宮の御ことによりていてたるをうちよりめしありてつねにさふら
はせ給このころは猶もとのことくまいりさふらはるへきよしおとゝもすゝめの
たまへはいまはよゐなといとたへかたうおほえ侍れとおほせことのかしこきに
よりふるきこゝろさしをそへてとてさふらふにしつかなるあか月に人もちかく
さふらはすあるはまかてなとしぬるほとにこたいにうちしはふきつゝ世中の事
ともそうし給ふついてにいとそうしかたくかへりてはつみにもやまかりあたら
むと思給へはゝかるかたおほかれとしろしめさぬにつみをもくて天けんおそろ
しく思給えらるゝ事を心にむせひ侍つゝいのちをはり侍りなはなにのやくかは
侍らむ仏も心きたなしとやおほしめさむとはかりそうしさしてえうちいてぬ事
ありうへなに事ならむこの世にうらみのこるへく思ふ事やあらむ法しはひしり
といへともあるましきよこさまのそねみふかくうたてあるものをとおほしてい
はけなかりし時よりへたて思ふ事なきをそこにはかくしのひのこされたる事あ
りけるをなむつらくおもひぬるとのたまはすれはあなかしこさらにほとけのい
さめまもり給しむこんのふかきみちをたにかくしとゝむる事なくひろめつかう
まつり侍りまして心にくまある事なに事にか侍らむこれはきしかたゆくさきの
大事と侍事をすきおはしましにし院きさいの宮たゝいま世をまつりこち給おと
ゝの御ためすへてかへりてよからぬ事にやもりいて侍らむかゝるおい法しの身
にはたとひうれへ侍りともなにのくひか侍らむ仏天のつけあるによりてそうし
侍なりわか君はらまれおはしましたりし時より故宮のふかくおほしなけく事
ありて御いのりつかうまつらせ給ゆへなむ侍しくはしくは法しの心にえさとり
侍らすことのたかひめありておとゝよこさまのつみにあたり給し時いよ　くをも
ちおほしめしてかさねて御いのりともうけ給はり侍しをおとゝもきこしめして
なむ又さらにことくはへおほせられて御くらゐにつきおはしましゝまてつかう
まつる事とも侍しそのうけ給はりしさまとてくはしくそうするをきこしめすに
あさましうめつらかにておそろしうもかなしうもさま　くに御心みたれたりと
はかり御いらへもなけれはそうつすゝみそうしつるをひんなくおほしめすにや
とわつらはしく思ひてやをらかしこまりてまかつるをめしとゝめて心にしらて
すきなましかは後の世まてのとかめあるへかりけることをいまゝてしのひこめ

られたりけるをなむかへりてはうしろめたき心なりとおもひぬる又このことをしりてもらしつたふるたくひやあらむとの給はすさらになにかしと王命婦とよりほかの人この事のけしきみたる侍らすさるによりなむいとおそろしう侍天へむしきりにさとし世中しつかならぬはこのけなりいときなくものゝ心しろしめすましかりつるほとこそ侍つれやう　く御よはひたりおはしましてなに事もわきまへさせ給へき時にいたりてとかをもしめすなりよろつの事おやの御世よりはしまるにこそ侍なれなにのつみともしろしめさぬかおそろしきにより思給へけちてしことをさらに心よりいたし侍へりぬることゝなく　くきこゆるほとにあけはてぬれはまかてぬうへは夢のやうにいみしき事をきかせ給て色　くにおほしみたれさせ給故院の御ためもうしろめたくおとゝ のかくたゝ人にて世につかへ給もあはれにかたしけなかりける事かた　くおほしなやみて日たくるまていてさせ給はねはかくなむときゝ給ておとゝもおとろきてまいり給へるを御らむするにつけてもいとゝしのひかたくおほしめされて御涙のこほれさせ給ぬるをおほかた故宮の御事をひるよなくおほしめしたるころなれはなめりとみたてまつり給その日式部卿のみこうせ給ぬるよしそうするにいよいよ世中のさはかしき事をなけきおほしたりかゝるころなれはおとゝはさとにもえまかて給はてつとさふらひ給ふしめやかなる御物かたりのついてに世はつきぬるにやあらむもの心ほそくれいならぬ心ちなむするをあめのしたもかくのとかならぬによろつあわたゝしくなむ故宮のおほさむ所によりてこそ世間の事も思ひはゝかりつれいまは心やすきさまにてもすくさまほしくなむとかたらひきこえ給いとあるましき御事なり世のしつかならぬことはかならすまつりことのなをくゆかめるにもより侍らすさかしき世にしもなむよからぬ事ともゝ侍けるひしりのみかとの世にもよこさまのみたれいてくる事もろこしにも侍けるわかくにゝもさなむ侍ましてことはりのよはひともの時いたりぬるをおほしなけくへき事にも侍らすなとすへておほくのことゝもをきこえ給かたはしまねふもいとかたはらいたしやつねよりもくろき御よそひにやつし給へる御かたちたかふ所なしうへもとしころ御かゝみにもおほしよる事なれときこしめしゝ事のゝちは又こまかにみたてまつり給ふつゝことにいとあはれにおほしめさるれはいかてこのことをかすめきこえはやとおほせとさすかにはしたなくもおほしぬへき事なれはわかき御心ちにつゝましくてふともえうちいてきこえ給はぬほとはたゝおほかたの事ともをつねよりことになつかしうきこえさせ給ふうちかしこまり給へるさまにていと御けしきことなるをかしこき人の御めにはあやしとみたてまつり給へと

いとかくさた　くときこしめしたらむとはおほさゝりけりうへは王命婦にくはしきことはとはまほしうおほしめせといまさらにしかしのひ給ひけむことしりにけりとかの人にもおもはれしたゝおとゝにいかてほのめかしとひきこえてさき　くのかゝる事のれいはありけりやとゝひきかむとそおほせとさらについてもなけれはいよ　く御かくもむをせさせ給つゝさま　くのふみともを御らんするにもろこしにはあらはれてもしのひてもみたりかはしき事いとおほかりけり日本にはさらに御らんしうる所なしたとひあらむにてもかやうにしのひたらむ事をはいかてかつたへしるやうのあらむとする一世の源氏又納言大臣になりて後にさらにみこにもなりくらゐにもつき給つるもあまたのれいありけり人からのかしこきに事よせてさもやゆつりきこえましなとよろつにそおほしける秋のつかさめしに太政大臣になり給へき事うち　くにさため申給つゐてになむみかとおほしよするすちのこともらしきこえ給けるをおとゝいとまはゆくおそろしうおほしてさらにあるましきよしを申返し給故院の御心さしあまたのみこたちの御中にとりわきておほしめしなからくらゐをゆつらせ給はむ事をおほしめしよらすなりにけりなにかその御心あらためてをよはぬきはにはのほり侍らむたゝもとの御をきてのまゝにおほやけにつかうまつりていますこしのよはひかさなり侍りなはのとかなるをこなひにこもり侍りなむと思ひ給ふるとつねの御ことのはにかはらすそうし給へはいとくちおしうなむおほしける太政大臣になり給へきさためあれとしはしとおほす所ありてたゝ御くらゐそひてうしくるまゆるされてまいりまかてしたまふをみかとあかすかたしけなきもの思ひきこえ給て猶みこになり給へきよしをおほしのたまはすれと世中の御うしろみし給へき人なし権中納言大納言になりて右大将かけ給へるをいまひときわあかりなむになに事もゆつりてむさてのちにともかくもしつかなるさまにとそおほしける猶おほしめくらすに故宮の御ためにもいとをしう又うへのかくおほしめしなやめるをみたてまつり給もかたしけなきにたれかゝる事をもらしそうしけむとあやしうおほさる命婦はみくしけ殿のかはりたる所にうつりてさうし給はりてまいりたりおとゝたいめむし給てこの事をもしものゝついてにつゆはかりにてももらしそうし給事やありしとあないし給へとさらにかけてもきこしめさむことをいみしき事におほしめしてかつはつみうる事にやとうへの御ためを猶おほしめしなけきたりしときこゆるにもひとかたならす心ふかくおはせし御ありさまなとつきせすこひきこえ給斎宮の女御はおほしゝもしるき御うしろみにてやむことなき御おほえなり御よういありさまなとも思さまにあらまほしうみえ給へれ

はかたしけなきものにもてかしつきゝこえ給へり秋のころ二条院にまかて給へりしむてんの御しつらひいとゝかゝやくはかりし給ていまはむけのおやさまにもてなしてあつかひきこえ給ふ秋のあめいとしつかにふりておまへのせむさいの色　くみたれたる露のしけさにいにしへの事ともかきつゝけおほしいてられて御袖もぬれつゝ女御の御かたにわたり給へりこまやかなるにひいろの御なをしすかたにて世中のさはかしきなとことつけ給てやかて御さうしむなれはすゝひきかくしてさまよくもてなし給へるつきせすなまめかしき御ありさまにてみすのうちにいり給ぬみき帳はかりをへたてゝみつからきこえ給ふせむさいともこそのこりなくひもとき侍りにけれいとものすさましきとしなるを心やりて時しりかほなるもあはれにこそとてはしらによりゐたまへるゆふはえいとめてたしむかしの御事ともかの野宮にたちわつらひしあけほのなとをきこえいて給いとものあはれとおほしたり宮もかくれはとにやすこしなき給けはひいとらうたけにてうちみしろき給ほともあさましくやはらかになまめきておはすへかめるみたてまつらぬこそくちをしけれとむねのうちつふるゝそうたてあるやすきにしかたことに思ひなやむへきこともなくて侍りぬへかりし世中にも猶心からすき　くしき事につけてもの思のたえすも侍けるかなさるましき事ともの心くるしきかあまた侍りし中につゐに心もとけすむすほゝれてやみぬることふたつなむ侍るひとつはこのすき給にし御ことよあさましうのみ思ひつめてやみ給ひにしかなかき世のうれわしきふしと思ひ給へられしをかうまてもつかうまつり御らんせらるゝをなむなくさめにおもふ給へなせともえしけふりのむすほゝれたまひけむは猶いふせうこそ思給へらるれとていまひとつはのたまひさしつなかころ身のなきにしつみ侍しほとかた　くに思ひ給へし事はかたはしつゝかなひにたりひんかしの院にものする人のそこはかとなくて心くるしうおほえわたり侍りしもおたしう思ひなりにて侍り心はへのにくからぬなと我も人もみたまへあきらめていとこそさはやかなれかくたちかへりおほやけの御うしろみつかうまつるよろこひなとはさしも心にふかくしますかやうなるすきかましきかたはしつめかたうのみ侍をおほろけに思しのひたる御うしろみとはおほししらせ給らむやあはれとたにのたまはせすはいかにかひなく侍らむとの給へはむつかしうて御いらへもなけれはさりやあな心うとてこと事にいひまきらはし給ついまはいかてのとやかにいける世のかきり思ふ事のこさす後のよのつとめも心にまかせてこもりゐなむと思ひ侍をこの世の思いてにしつへきふしの侍らぬこそさすかにくちおしう侍りぬへけれかならすおさなき人の侍おいさきいとまちとを

なりやかたしけなくとも猶このかとひろけさせ給て侍らすなりなむのちにもかすまへさせ給へなときこえ給ふ御いらへはいとおほとかなるさまにからうしてひとことはかりかすめ給へるけはひいとなつかしけなるにきゝつきてしめ　く
とくるゝまておはすはか　くしきかたののそみはさるものにてとしのうちゆきかはる時　くの花もみち空のけしきにつけても心のゆくこともし侍りにしかな
春の花のはやし秋の野のさかりをとり　くに人あらそひ侍けるそのころのけにと心よるはかりあらはなるさためこそ侍らさなれもろこしには春の花のにしきにしくものなしといひはへめりやまとことのはには秋のあはれをとりたてゝおもへるいつれもとき時につけてみたまふにめうつりてえこそ花鳥の色をもねをもわきまへ侍らねせはきかきねのうちなりともそのおりの心みしるはかり春の
花の木をもうへわたし秋の草をもほりうつしていたつらなるのへのむしをもすませて人に御らむせさせむと思給るをいつかたにか御心よせ侍へからむときこえ給にいときこえにくき事とおほせとむけにたえて御いらへきこえ給はさらんもうたてあれはましていかゝ思わき侍らむけにいつとなきなかにあやしときゝしゆふへこそはかなうきえ給ひにし露のよすかにも思給へられぬへけれとしとけなけにのたまひけつもいとらうたけなるにえしのひ給はて
　君もさはあはれをかはせ人しれすわか身にしむる秋のゆふ風しのひかたきおり　くも侍かしときこえ給にいつこの御いらへかはあらむ心えすとおほしたる御けしきなりこのついてにえこめ給はてうらみきこえ給ことゝもあるへしいますこしひかこともし給つへけれともいとうたてとおほいたるもことはりにわか御心もわか　くしうけしからすとおほしかへしてうちなけき給へるさまの物ふかうなまめかしきも心つきなうそおほしなりぬるやをらつゝひきいり給ぬるけしきなれはあさましうもうとませ給ぬるかなまことに心ふかき人はかくこそあらさなれよしいまよりはにくませ給なよつらからむとてわたり給ひぬうちしめりたる御にほひのとまりたるさへうとましくおほさる人　くみかうしなとまいりてこの御しとねのうつりかいひしらぬものかないかてかくとりあつめやなきのえたにさかせたる御ありさまならんゆゝしうときこえあへりたいにわたり給てとみにもいり給はすいたうなかめてはしちかうふし給へりとうろとをくかけてちかく人　くさふらはせ給てものかたりなとせさせ給かうあなかちなる事にむねふたかるくせの猶ありけるよとわか身なからおほしゝらるこれはいとにけなき事なりおそろしうつみふかきかたはおほうまさりけめといにしへのすきは思ひやりすくなきほとのあやまちに仏神もゆるし給ひけんとおほしさますも

なをこのみちはうしろやすくふかきかたのまさりけるかなとおほしゝられ給女
御は秋のあはれをしりかほにいらへきこえてけるもくやしうはつかしと御心ひ
とつにものむつかしうてなやましけにさへし給をいとすくよかにつれなくてつ
ねよりもおやかりありき給ふ女君に女御の秋に心をよせ給へりしもあはれに君
の春のあけほのに心しめ給へるもことはりにこそあれ時　くにつけたる木草の
花によせても御心とまるはかりのあそひなとしてしかなとおほやけわたくしの
いとなみしけき身こそふさはしからねいかて思ふ事してしかなとたゝ御ためさ
う　くしくやと思こそ心くるしけれなとかたらひきこえ給山里の人もいかにな
とたえすおほしやれとゝころせさのみまさる御身にてわたり給事いとかたし世
中をあちきなくうしと思ひしるけしきなとかさしもおもふへき心やすくたちい
てゝおほそうのすまゐはせしと思へるをおほけなしとはおほすものからいとを
しくてれいのふたんの御念仏にことつけてわたりたまへりすみなるゝまゝにい
と心すこけなる所のさまにいとふかゝらさらむ事にてたにあはれそひぬへしま
してみたてまつるにつけてもつらかりける御ちきりのさすかにあさからぬを思
ふに中　くにてなくさめかたきけしきなれはこしらへかね給いとこしけき中よ
りかゝり火とものかけのやり水のほたるにみえまかふもおかしかゝるすまゐに
しほしまさらましかはめつらかにおほえましとの給に
　いさりせしかけわすられぬかゝり火は身のうき舟やしたひきにけん思ひこ
そまかへられ侍れときこゆれは
　あさからぬしたの思ひをしらねはや猶かゝり火のかけはさはけるたれうき
ものとをしかへしうらみ給へるおほかたものしつかにおほさるゝころなれはた
うとき事ともに御心とまりてれいよりはひころへたまふにやすこしおもひまき
れけむとそ